

平成 29 年度第 4 回二宮町お互いさま推進協議会 議事録

- 1 開催日時 平成 30 年 1 月 25 日（木）午後 6 時 30 分～午後 8 時 10 分
- 2 開催場所 二宮町役場 第 1 会議室
- 3 出席者 お互いさま推進協議会委員：12 名
事務局：健康福祉部長、地域包括ケアシステム担当課長、地域包括ケアシステム
班員 1 名
- 4 協議事項
 - (1) 活動報告等について
 - (2) お互いさま推進協議会の活動周知について
 - (3) 地域の協議体の支援について
 - (4) その他

5 議事録

1. 開会挨拶

事務局 定刻となりましたので平成 29 年度第 4 回目二宮町お互いさま推進協議会を始めさせていただきます。本日は柴谷委員、松本委員が欠席となっております。また、片木委員が遅れていますが先に進めさせていただきます。はじめに会長よりご挨拶をお願いします。

2. 挨拶

会長 みなさまお忙しい中ご苦勞様です。年が明けたばかりですが、すぐに 4 月になってしまう。特に年をとるとなおさらにです。本日は今年度最後の会となりますが、取りまとめは事務局に任せるとして、活発な意見ををお願いします。

事務局 本日の傍聴は 2 名です。

3. 議題

事務局 (資料確認。)

今回より、名簿の 1 4 番の地域包括支援センターの石川委員が生活支援コーディネーターとして入っております。

石川委員 よろしくをお願いします。

会長 それでは議題に入りたいと思います。議題の (1) について、一色小学校区の活動からをお願いします。

委員 一色小学校区では11月2日に介護保険制度の説明会があり35名が参加。地域包括支援センターと町職員が説明しました。参加者35名の内、協議会の関係者の他に20名の方が一般住民でした。また、12月13日にはメゾン二宮とグレースヒルの見学にもいった。ロボットの活用など新しいことにも取り組み、職員の離職率も低いとうかがいました。

定例会では、通いの場について情報交換もあり、各地区とも運営は慣れてきている様子もありました。農繁期で参加者が少なかったり、クリスマス会を開いたり、地域ごとに特性がある様子でした。参加者の傾向として、定着して催しの時には参加者が多く、新しい取り組みのときはあまり集まらないような状況でした。

生活支援サービスファイルについては、どのようなものになるのか関心がある様子でした。

会長 一色小学校区福祉協議会の会員構成等はいかがですか。

委員 会員は全ての地域住民です。役員は自治会長や地区社協部会長、民生委員などで構成されている。こういった会は住民一人ひとりに会員であるという意識がないことが難しい。ゆめクラブなどは個別に会費を払っているので自覚があります。

会長 各地域の通いの場はいかがでしょう。

委員 ある程度固定のメンバーになってます。新しい方が増えていくとよいです。

会長 新しいことをはじめると言うより、今までやってきたものに工夫していくほうがよいのでしょうか。

会長 他の地区はどうでしょうか。

委員 越地・釜野では女性が多い。手作業等が人気。男性向けに麻雀も始めた。また、役員やボランティア等でハモニカを練習して披露してます。参加者も地域の顔見知りや演奏すると熱心に聴いてくれます。自分たちでできることを考えて取り組んでいる。懐かしい曲なども好評を得ている。自分たちが楽しんでやっています。カーリンコンなど会場が必要なものは地域の高齢者施設の会場を借りています。

会長 私の地域では通いの場のはじめにみんなで歌を唄ってます。唄うと気持ち良いし頭も使う。地域には歌や楽器に優れた人も大勢います。

委員 私たちの地域は他の地域と連絡を取り、自分たちができることを他の地区にも提供している。1つの地域だけでなく、いろいろな地域と交流すると楽しい。

会長 通いの場のメニューについては地域の方の力を生かす視点も大切ですね。

次に、生活支援サービスファイルについて、お願いします。

委員 委員の皆さんにはメールで共有はさせていただいていたものの、会としては事後報告になってしまいますが、会で話し合った生活支援サービスの情報を取りまとめて各地域の通いの場に町と社協、生活支援コーディネーター、そして委員さんの中でご協力いただける方にも同行いただきながら説明してきました。通いの場同様、各地域ごとに受け止め方はさまざまであった印象です。今後は通いの場以外に、地域にどのような活動をされている集まりがあるのかを、各団体に趣旨説明しながら

了解いただき、取りまとめていきたいと考えています。その中で、通いの場の活動にも協力いただけるような方があれば一緒に活動を盛り上げ、お互いにとって良い効果が得られることを期待しています。

会長 みなさんからご意見、ご質問はいかがでしょうか。

委員 地区ごとにどのような説明をされたのでしょうか。

委員 お時間をいただき資料の内容をかいつまんで読み上げながら説明をさせていただいた地域もあれば、資料の内容にはあまり触れずに、主旨の説明を中心にお話しさせていただいた地域もありました。この後の議題の2番でも取り上げていただきたいのですが、地区から通いの場の運営委員や利用者も含め、この生活支援ファイルと、お互いさま推進協議会について、もう少し丁寧に説明を聞きたいとおっしゃってくださっているところがありますので、そちらにはあらためてお伺いさせていただきたいと思います。

委員 地区によって説明の時間や内容もですが、置き場所もまちまちみたいですね。

会長 私の地区でもいろいろな団体が使われるので、課題はあるようです。

委員 提案ですが、通いの場だけでなく、不特定多数の方が利用される商店などに置いておくのもひとつではないでしょうか。

委員 それもいいですね。それから、私の地域では通いの場の中でこのファイルの内容を項目ごとに取り上げて説明し、みんなの話し合いの話題にしていくことも考えています。

会長 次に、認知症の普及啓発について、報告をお願いします。

委員 前回情報提供させていただいた町内の認知症の普及啓発活動ですが、前回の会議以降も地域の通いの場やゆめクラブなど機会をいただき活動しています。町内の施設の職員やケアマネジャーと社協、行政等、認知症に携わる職員が手作りで地域の方との接点を持ちながら行っています。2月には大磯署から依頼をいただいています。

会長 通いの場に関して、10月の交流会の様子はいかがでしたか。

事務局 参加者は各地区2名と限定的で時間も限られてたのですが、全体での意見交換ができてよかったとの声も聞かれました。1回限りではなく今後も続けていきたいと思えます。

委員 おそらく通いの場の運営委員をどのように募っているのかは共通の課題だと思います。

委員 リーダー養成講座もすでに携わっている方が参加しており新たな担い手のという様子はないですね。

(組長さんに割り振ったり、地域のみなさんに募集をかけたり、役員と当番の役割をすみわけるなど、各地域で工夫されている様子。自治会や地区社協、ゆめクラブなどの組織の構成や分担も地域性がある様子)

会長 次に、大空さんから資料説明をお願いします。

副会長 住民活動として、地域を主体とした活動と、それとは別の形での活動があるかと

思います。大空は活動開始 25 年になりますが、当初は自分たちの将来のためにというところから始まりました。地域活動とは別に、NPO としてできること、世代間交流をテーマにフォーラムを開催します。お互いさま推進協議会とは切り口は違っても行き着くところは同じと考えています。

会長 少子高齢化が進み世の中は今後ますます大変な状況になります。世代間交流が進むようお願いします。

副会長 先ほど委員から発言のあった、通いの場に来られないような方や世代に伝えていく手段を考えることも重要だと思います。

委員 実際に通いの場の参加者がどの程度固定化されているのか、参加されない方がどのくらいあるのか。そこを押さえて通いの場にお誘いしたり、他にコミュニケーションが取れる機会が確保されたり、そういう意味で同じ地区、同じ場所だけでなく考えていけると良いのでは。

会長 単に健康づくりであれば個人でいろいろと取り組んでいられる方は多い。それ以外の部分をどうして行くか。

委員 通いの場に如何に付加価値を付けられるかというのもひとつの方法ではないか。健康づくりやお楽しみに加えて、情報が得られたり、買物ができたり、地域のつながりが広まるなど、生活を支援できる機能を考えられるとよいのではないのでしょうか。今の高齢者は IT 機器が活用できる方も増えてることも大切な要素です。

委員 県で IT 機器活用の講師も派遣してくれるみたいですね。活用を検討したいですね。

会長 時間も限られております。議題の 2 に移ります。説明をお願いします。

委員 先ほど委員さんからご意見いただいたように生活支援サービスファイルやお互いさま推進協議会の活動周知について、通いの場以外への配架も検討していきたいと思えます。先ほど少しお話させていただきましたが、富士見が丘・松根、緑が丘、越地・釜野地区には通いの場にもう少し詳しく説明に来てほしいと依頼を受けています。その中で、これまで会で話があった通いの場で買物ができないか、といった支援が話題になれば実現に向けて相談させてもらえればと考えています。その際には委員のみなさんにもお声かけさせていただきますのでよろしくお願い致します。

委員 ひとつ申し上げたいのですが、今、就労されている方々は、こういった健康づくりや地域の支え合いの必要性や、現に行われている活動について、触れる機会が乏しいのではないかと思います。そういった世代、定年前の世代に向けてお話させていただく機会を企業にはたらきかけていくことも必要だと思います。

会長 新たな仲間づくりには検討していきたいですね。

生活支援ファイルそのものはこの会としてのひとつの成果物であり、より充実して活用いただけるとありがたい。介護事業所にも置かせてもらおうとどうでしょう。

委員 そうですね。考えていたのですが、ファイルの活用について『手に取りやすさ』と『取りやすい環境』も必要だと思います。ダイジェスト版でよいのでフリーペーパー程度の薄さと、手持ち無沙汰になる状況、例えば病院の待ち時間などという環境への配架も有効ではないかと。一方で、介護事業所としては介護サービスを利用

されている方と地域の通いの場の活動がうまく連携できる方法がないかと考えています。

委員 地域の側でも介護事業所と連携することで、認定を受けていようがいまいが、同じ地域に住まう住民として時間を共有できるとすばらしいと思います。

会長 事業所での通いの場の開催等も含め、ぜひ企画検討お願いしたいと思います。

では、議題の3地域の協議体の支援についてです。すでに組織化されている一色小学校区は出席者についていかがでしょうか。

委員 地区長、自治会長、地区社協部会長、民生委員などを中心に15名が選ばれ、地域包括支援センター、メゾン二宮施設長、行政も参加しています。

会長 メンバーは事業所、青少年指導員、スポーツ推進員等、メンバーは広く捉えて声かけしていくほうがよいのではないかと思います。

事務局 今日話をうかがっていると、小学校区というよりもすでに話し合い、情報交換を始めている方々の活動を基盤に考えたほうがよいのかと思います。はじめから必要な方全てにお集まりいただかなくても、まず担っていただいている地域の方々や事業所の方々にお集まりいただく機会を持ちたいと思います。

委員 高齢者だけでなく子育て世代の親御さんにもお声かけしてみたい。

委員 世代別、事業別にいろいろな会議、組織があり同じような顔ぶれになってます。

事務局 すでに行われている交流を元に、そこに参加されていない方にも行政や社協、生活支援コーディネーターからお声かけさせていただき集まる機会を持たせていただきたいと思います。

委員 今日のお話だと山西地区は具体化できそうですね。

委員 私の地区は子どもの親御さんにも協力いただいています。ここはお願いするけど、これ以上は立ち入らない。適度な距離が必要だと思います。

事務局 今日活発なご意見をいただきました。また、具体化できるところを生活支援コーディネーターとともに取り組んでいきたいと思います。

会長 以上で本日の会議は終了でよろしいですか。

事務局 本年度最後の会議となりましたが1年間ありがとうございました。来年度も皆様にご出席お願いしたいと考えております。次回は4月の予定です。本日はありがとうございました。

○平成30年1月25日 お互いさま推進協議会 要旨

●活動報告等、会の活動周知より

- ・一色小学校区福祉協議会では介護保険制度の研修や介護保険施設の見学を実施した。生活支援サービスファイルについて関心を示されている。
- ・生活支援サービスファイルについては会の成果物であり、より多くの方の目に触れ、手に取っていただくため工夫が必要。ダイジェスト版の作成や医療機関への配架なども検討する。また、活用いただきながら内容の充実を図っていけるように、会として生活支援コーディネーターとともに取り組んでいく。
- ・認知症の普及啓発活動については町内の認知症に携わる事業所、機関が連携し、住民や企業などとともに地域づくりを進めていけるよう活動を続けている。
- ・通いの場については参加者が固定してきている傾向。運営については各地域ごとにこれまでの経過の延長で工夫しながら行っている。情報、物品、人材の交流を行っている地域もあり、他の地区の状況を参考にできるところは取り入れることができる機会が必要。
- ・地域の切り口とは別に NPO としての切り口で世代間交流を行うフォーラムが開催予定。
- ・健康づくりは個人レベルで取り組まれている方も多い。通いの場に限らず地域の中で健康づくりやコミュニケーションがとれる機会の情報提供も必要。
- ・通いの場としては健康づくりや余暇の他にも付加価値を付けていける可能性はある。お互いさまの会の活動と通いの場の運営委員会との連携が必要。
- ・高齢者にも IT 機器を活用できる方は増えていることもプラスの要素として押さえておく。IT 機器講習などは制度として行っているものもある。
- ・就労されている方は健康づくりや地域づくりの必要性、実際に行われている活動に触れる機会が乏しい。企業等にはたらきかけて話をさせていただくことも必要。

●地域の協議体の支援についてより

- ・すでに地域間で人、物、情報の交流が行われているところはある。そういったネットワークと相談しながら、それ以外の組織、人材への声かけを行い、生活支援コーディネーター、社協、行政も含めて集まる機会を調整していく。